



山田先生による講座・会議の記録

2021年森海例会は4月1日のバスツアー実施後緊急事態宣言により活動中止となっていました。

解除後最初の例会は「山田先生による講座」-終了後は全体会議を行いました。

- 1・日時 令和3年6月24日(木) 13:00~17:00
- 2・集合場所 南千里プラザプラザ 6階 ラコルタ 第2・3会議室
- 3・参加者 20名
- 4・内容 座学 「近木川・男里川での生き物調査を振り返って」 13:00~14:45
全体会議 14:50~16:40

座学研修

調査の流れ 平成24年から近木川・男里川の河口干潟をフィールドとし調査活動を行ってきた。

当初、近木川は府下でも「汚い川」としてワーストワンとして有名だったとのこと。

流域の方の清掃活動などの努力の結果、平成7年、ヨシ群落でハクセンシオマネキ、ヤマトオサガニ、コメツキガニなど希少種が見つかる。又、2019年には大阪湾ではまずいと言われるチャイロマルハタ(地曳網で採集)、男里川では、ヒモイカリナマコ、シオマネキ、ヤマトオサガニ等の希少種が見つかる。

- 採集場所** ・泥を掘る (タモ網やスコップ等) スナチャワン、イワムシ、マテカイ、アサリ、ヒメアサリ、ヤマトシジミ、クチバガイ、ソトオリガイ等(砂泥に潜る動物)
- ・テトラポット イワフジツボ、ヤッコカンザシゴカイ (固着性がある)
- ・岩に付着 カイメン、ヒザラガイ、ヤスリヒザラガイ、(軟体動物)
- 採集する場所により生き物の種類が違う

海の生き物の生活型には

プランクトン (浮遊生物) 遊泳筋力を持たない クラゲ等

ネクトン (遊泳生物) 自力で海中を移動

ベントス(底生生物) 海底を這ったり張り付いて生活する等

海の分類は (門、綱、目、科、属、種) の説明があり

まずは自分の関心のある方から名前を覚えてみては・・・と

パワーポイントでの画像の説明と福嶋さんが作成して下さった資料を見ながらの座学は分かり易

かった。最後に映し出されたウミホテルの幻想的な画像に驚いた。これは砂が綺麗な証拠であり泉州の海の水質が良くなった証明であるとの説明。再生に関わった人たちの活動が実を結んだのだと思った。

全体会議 (14:50~16:40)

- ① 新科員紹介 東川さん自己紹介
- ② 地曳網体験についての代替案 全般に高齢化してきており以前から地曳網は体力的に厳しいとの意見があった。山田先生よりビーチコーミングの紹介があった。10月~3月が最適漂着物の的を絞り良い時期に試みてみることにする。
- ③ 生き物調査について 榎井川河口がある。岡田浦駅から15分程度のところにあり、そこでの調査も可能、高架下で同定を行うことも出来るため、次年度は近木川・榎井川河口の調査とをすることとなった。
- ④ 実習の受け入れについて 講座生の実習を受け入れ、海の活動だけではなく、森、里川の活動にも参加してもらい森海科の良さをアピールする。まずは9月2日(木) 海シリーズ 尼崎釣り体験を実施 5名受け入れとする。
- ⑤ 万博ネイチャーについて コロナの関係で未定ではあるが、実施するとなると以前と同じ出し物ストーンペインティング、ソテツの実工作、その他検討していく 8月5日、8月19日に勉強会の後に予定。後一点それぞれ何か考えて来て欲しい。
- ⑥ 「ふれあい教室」について 実施する方向で動いているので心づもりをしていて欲しい。
- ⑦ 「共通講座」について 去年は実施ゼロ。今年度8月は実施予定 平野区民センターにて開催されるので出来るだけ参加してほしい。
- ⑧ 8・9・10・11月の計画予定案作成 各班すり合わせを行う。

記録 (藤井) 写真 (伊藤)



山田先生の講義



講義風景



東川さん自己紹介